

大学生の新聞に対する態度

—宇都宮大学生を対象として—

片 桐 雅 義

この小論では、大学生の新聞に対する行動に関する2つの調査の結果を報告する。新聞をよく読む大学生の割合は15から20%程度である。彼らが新聞を読まない理由として次のことがあげられている。(1)テレビから情報を得ることができる、(2)インターネットから情報を得ることができる、(3)新聞を読むのは面倒くさい。最初の2つの理由はもっともらしい理由であるが、最後の理由が最も重要である。というのは、彼らは、新聞に読みやすさと分りやすさを望んでいるからである。経費はもうひとつの重要な要因である。大学生の新聞に対する行動が変わるためには、これらの条件が重要である。

大学生の「新聞離れ」が言われてから久しい感があるが、実態として大学生が新聞をどの程度読んでいるのか、あるいはいないのかについてきちんとしたデータは意外に存在しない。本稿は、筆者が栃木県域地方紙下野新聞社の読者懇談会委員を委嘱されていた時期に行った宇都宮大学における調査及びその後行った同様の調査をもとにして、宇都宮大学生が新聞にどの程度接触しているか、新聞及び情報一般についてどのような態度を持っているかを示すものである。

筆者がこの調査を行う以前に、読者懇談会委員の前任者であった国際学部教授杉原弘修氏が同様の調査を行っている。その結果は2002年10月、宇都宮大学で開催されたパネルディスカッション「若者の新聞離れを考える」において紹介されている。筆者が行った調査は、この調査をベースにし、1回目の調査実施にあたっては杉原氏の協力をいただいた。氏の協力に謝意を表するとともに、データの記述にあたっては、氏の調査データとの比較も行わせていただくこととする。ただし、質問項目は同一ではないので、比較がしにくいものもある。

調 査

調査時期：

1 回目 2003年 7月

2 回目 2005年 10月

調査対象及び調査方法：

宇都宮大学生。教養教育科目（法学関係科目、心理学関係科目）の受講者に対して、授業終了後に回答を依頼した。ランダムサンプリングを行っているわけではないので、その点の問題はあるが、杉原氏の調査を含め3回の調査結果を突き合わせることで、宇都宮大学学生の一般的傾向を推測し、また変化傾向をみることができるであろう。

社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜で入学している学生は新聞への態度が一般学生と異なっている可能性があると考えられるので、10代及び20代前半の年齢の日本人学生だけを分析対象とした。分析対象となった学生数は、1回目調査269人、2回目調査113人である。

調査項目：

これらの調査は、下野新聞との協力によって行われたため、調査項目の中には、読んだことがある新聞名、購読している新聞名を問う質問項目も含まれていた。しかし、ここでの関心は大学生が新聞をどの程度読んでいるか、一般的に新聞に対してどのように感じ、考えているかにある。したがって、ここでは一般的な項目についてのみ分析を行うこととする、以下に、分析の対象とした項目を示す。

性別、学部、学年、年代

住居 1. 家族と同居 2. 一人暮らし

○読んだことがある新聞 (略)

○新聞を購読しているか

・購読していない場合

その理由 (2つまで)

1. インターネットで情報を得るから
2. テレビで情報を得るから
3. ラジオで情報を得るから
4. 雑誌で情報を得るから
5. 新聞代が高いから
6. 古新聞がゴミになるから
7. その他 ()

もし新聞を購読するとしたら、どの場合か

1. 就職活動のため
2. 社会人になったら
3. 古新聞を回収してくれたら
4. 新聞代が安くなったら
5. その他 ()

どんな記事があったら新聞を購読するか。
(自由記述)

・購読している場合 購読紙 (略)

○普段、新聞をよく読んでいるか?

1. あまり読んでいない
2. よく読んでいる

・あまり読んでいない場合

その理由

1. インターネットで情報を得るから
2. テレビで情報を得るから
3. ラジオで情報を得るから
4. 面倒くさいから
5. その他 ()

・よく読んでいる場合 新聞名 (略)

どこで読むか

1. 自宅
2. 大学図書館
3. その他 ()

どの記事を一番読むか。

1. 政治・経済
2. 事件・事故
3. 国際
4. 地域
5. スポーツ
6. 文化・芸能

7. 家庭・暮らし 8. 健康 9. テレビ・ラジオ

10. その他 ()

地域情報に関する質問 (略)

読んでいる新聞で足りないと思う記事 (略)

○ (全員に対する質問)

- (1) 最近の若者は新聞を読まないと言われるが、どう思うか?
- (2) インターネットでニュースを読むから新聞は取らなくても良いという人がいるが、これについてどう思うか。
- (3) 新聞に果たして欲しいと思う使命の中で一番大きいものは何か?

結 果

1. 新聞の購読

新聞を購読している者の割合は以下のようである。

2003年調査

家族と同居 93.7% 一人暮らし 27.4%

2005年調査

家族と同居 87.8% 一人暮らし 22.2%

この質問項目では、家族と同居している、いわゆる自宅通学の場合、家で新聞を購読している場合には「購読している」を選択するように指示している。したがって、約90%の購読率は、世帯の購読率である。杉原氏の2002年の調査においても、自宅通学生生の86%が世帯または自分で購読していると回答している。これに対して、一人暮らしの場合、購読率は20%台に落ち込む。杉原氏の調査では自宅外生で購読している者は28%であった。2002年からの3年間に、28%、27.4%、22.2%と購読率は漸減している。

購読していない理由 (第一選択) の分布は以下のようである。

1. インターネットで情報を得るから

2003年調査 13.5% 2005調査 11.5%

2. テレビで情報を得るから

2003年調査 37.7% 2005調査 30.8%

3. ラジオで情報を得るから		
2003年調査	0.0%	2005調査 0.0%
4. 雑誌で情報を得るから		
2003年調査	1.1%	2005調査 0.0%
5. 新聞代が高いから		
2003年調査	38.4%	2005調査 37.7%
6. 古新聞がゴミになるから		
2003年調査	21.4%	2005調査 8.2%
7. その他		
2003年調査	7.5%	2005調査 4.9%

インターネットで情報を得るからという理由の選択は意外に少なく、テレビで情報を得るからという理由が30%台で選択されている。しかし、それより多い理由として、新聞代が高いことがあげられている。杉原氏の調査でも49%が購読料が高い、安ければ購読すると回答している。杉原氏の調査には、いくらぐらいなら購読するかという質問が含まれていた。「月額1,000円くらいなら」という回答が80%と大勢を占めていた。

この項目では、2つまで選択を許していたが、第1選択と第2選択を併合して集計した結果は、第1選択だけの結果とほぼ同じ傾向を示している。

購読をしていない場合、もし購読をしたらどのような状況でかを問うたところ、次のような結果となった。

1. 就職活動のため		
2003年調査	35.7%	2005調査 42.6%
2. 社会人になったら		
2003年調査	16.8%	2005調査 29.5%
3. 古新聞を回収してくれたら		
2003年調査	2.8%	2005調査 14.8%
4. 新聞代が安くなったら		
2003年調査	21.0%	2005調査 11.5%
5. その他		
2003年調査	7.7%	2005調査 0.0%

調査時点によって変動はあるが、就職活動をするときには、新聞を購読した方がいいかもしれない、社会人になったら購読した方がいいかもしれないと考えていることが伺われる。杉原氏の調査で「新聞は必要か」という質問に対し81%が必要

だと回答している。大学生は新聞の必要性は感じながら、現実には購読をあまりせず、必要が生じたら購読する可能性があることが示されている。購読料が実際に購読するか否かにかかわる要因のひとつであり、上の結果から、新聞代が安ければ購読する可能性が少しはあることがわかる。

2. 新聞を読んでいるか

「よく読んでいる」という回答の率を、新聞を購読しているか否かと関係させて示すと次のようである。

	2003年	2005年
購読している	43.7%	32.7%
購読していない	4.2%	1.6%
全体	22.7%	15.9%

このように、購読している場合でもよく読んでいるという回答は30から40%台にとどまっている。これは、世帯として購読しているが、あまり読んでいない者がいることが理由として考えられる。しかし、2003年の調査で「一人暮らしで購読している」者の中で「よく読んでいる」割合は50.9%であり、若干高くはなるが、購読することすなわちよく読むことにつながるわけではないことがわかる。ただし、この質問項目では、「よく読む」、「あまり読まない」の基準を示さず、回答者の判断に委ねているから、控えめな回答をしている回答者がいる可能性はある。全体では良く読む者の割合が、2003年には22.7%であるが、2005年には15.9%に低下している。

あまり読んでいないという回答者にその理由を尋ねた結果は以下のようなものである。

1. インターネットで情報を得るから		
2003年調査	17.7%	2005調査 14.0%
2. テレビで情報を得るから		
2003年調査	40.2%	2005調査 37.1%
3. ラジオで情報を得るから		
2003年調査	0.0%	2005調査 0.7%
4. 面倒くさいから		
2003年調査	28.9%	2005調査 36.4%
5. その他		
2003年調査	13.2%	2005調査 11.9%

この結果は、購読しない理由とほぼ同じ傾向を示している。しかし、「面倒くさいから」という理由の選択率が30%程度あることには注意すべきであろう。「その他」を選択した回答者の多くが「時間がない」ことをその内容としてあげている。

よく読んでいるとした回答者に、どこで新聞を読んでいるかを尋ねたところ、2003年調査では、自宅 83.1%、大学図書館 6.2%、その他 10.8%、2005年調査でも自宅 89.5%、大学図書館 5.3%、その他 5.3%と、自宅で読む割合が圧倒的に高い。これは、逆に言えば購読し自宅で読む条件が整っていなければ新聞を読む行動は起きにくいことを示している。

どのような記事をよく読むかの問いについては、2回の調査とも事件事故 (24.0%, 31.6%)、スポーツ (24.0%、15.8%)、テレビラジオ欄 (20.0%) が上位を占め、政治経済、国際、地域関係の記事は10%以下のポイントしか得ていない。

3. 新聞、インターネットに対する考え方

3-1 「最近の若者は新聞を読まなくなった」と言われることに対する自由記述回答を「新聞は読むべきだ」、「読まなくても問題ない」、「その他(客観的記述)」に分類した。客観的記述とは、「そのとおりだ」のような記述がなされ、それが良いか否かという評価的な記述がないものである。2回の調査の結果はかなり様相が異なっている。2003年の調査の結果は次の通りである。

新聞をよく読んでいる者	
新聞は読むべきだ	32.8%
読まなくても問題ない	18.0%
その他	49.2%
新聞をあまり読んでいない者	
新聞は読むべきだ	19.7%
読まなくても問題ない	28.4%
その他	51.9%

その他が約半数を占めているが、新聞を読んでいる者が「読むべきだ」と考え、あまり読んでいない者が「読まなくても問題ない」とする傾向が伺える。

2005年の調査の結果は次のようである。

新聞をよく読んでいる者	
新聞は読むべきだ	12.5%
読まなくても問題ない	75.0%
その他	12.5%
新聞をあまり読んでいない者	
新聞は読むべきだ	38.0%
読まなくても問題ない	40.0%
その他	22.0%

2005年の調査では、記述回答した者の数が60人と少なく、特に新聞をよく読んでいる者は8人しかいないので、注意して解釈する必要があるが、「読まなくても問題ない」とする傾向が強くなっていると見てことができるだろう。

3-2 「インターネットでニュースを読むから新聞は取らなくても良い」という意見に対する自由記述回答を、整理すると次のようである。

2003年調査

新聞をよく読む者	
インターネットでよい	52.5%
新聞を読むべきだ	27.9%
どちらとも言えない	13.2%
無回答	6.6%
新聞をあまり読まない者	
インターネットでよい	60.1%
新聞を読むべきだ	15.4%
どちらとも言えない	17.8%
無回答	6.8%

2005年調査

新聞をよく読む者	
インターネットでよい	50.0%
新聞を読むべきだ	33.3%
どちらとも言えない	16.7%
無回答	0.0%
新聞をあまり読まない者	
インターネットでよい	76.9%
新聞を読むべきだ	12.1%
どちらとも言えない	8.8%

無回答	2.2%
新聞を読むことについて無回答	
インターネットでよい	75.0%
新聞を読むべきだ	25.0%
どちらとも言えない	0.0%
無回答	0.0%

2003年と2005年の結果はほぼ同じようにも見えるが、新聞をあまり読まない者の中のインターネット肯定の割合は増加している。新聞を読むかどうかによる区分をせず、全体的に集計すると、2003年にはインターネットを肯定する意見が58.4%であったのに対し、2005年では72.6%と増加している。

3-3 新聞に何を望むかという問いに対する自由記述回答では、「正確さ」「公正さ」「真実」を求めるという回答が2003年調査では45.5%、2005年調査でも45.4%と最も多い。新聞をあまり読んでいない者の意見をどのようにとりあげるかという問題はあるが、これらの回答には、新聞に書かれていることが必ずしも真実ではないとする疑念が感じられる。

その他には、「分りやすさ」、「読みやすさ」を求める意見が比較的多いが10%以下である。

考 察

最初に述べたように、若者の新聞離れは以前から言われているが、具体的なデータとして示されることは意外に少ない。杉原氏が2002年に宇都宮大学で行った調査はその意味で貴重であり、ここで報告した2つの調査はそれを裏打ちするとともに、最近の変化を知るための助けとなるものである。

一人暮らしでも27% (2003年)、あるいは22% (2005年) が新聞を購読しているというのは、まだよい数字なのかもしれない。しかし、2年の間に5ポイントの低下がみられるのは気にかかる点である。「よく読んでいる」割合にも7ポイントほどの低下が見られる。

大学生が新聞をあまり読まないのはなぜだろうか。テレビやインターネットで情報が得られるから新聞は必要がないというのが、読まない人々の最も合理的な理由であると思われる。しかし、テ

レビとインターネットを合わせてもその理由をあげる者の割合は50から60%である。その他の理由として注目すべきなのは「面倒くさい」という理由である。2003年には28.9%であったが、2005年には36.4%に増加している。この割合は、テレビで情報を得るからという理由の割合とほぼ同じである。テレビ、インターネットから積極的に社会的な情報を得ようとしているならば、新聞は必ずしも必須のものではないかもしれない。しかし、面倒くさいという理由をあげて新聞を読まない者は他のメディアから情報を得ようとしているとは考えにくく、このような割合が増加することは懸念すべきことかもしれない。

これと関連することを、新聞に求める自由記述の中にみることができる。最も多い記述は「正確さ」や「公正さ」を求めるものであるが、次に「分りやすさ」「読みやすさ」を望む記述が多い。つまり、新聞が分りにくく、読みにくい存在として感じられているということである。読まない理由の「面倒くさい」は、これを反映しているものだと考えることができる。

さて、新聞を読むことが社会的問題に関心を持ち思考することに重要な行動であるとして、大学生がそのような行動をするようになるためには何が必要であろうか。大学生が新聞を読まないことを嘆いてもそれがなんの役にも立たないのは明らかである。調査結果から考えれば、新聞が、必要性が感じられ、分りやすく読みやすく、さらに経費があまりかからないものにならなければ大学生が新聞を読むようにはならないだろうと考えられる。

Abstract

This paper reports results of two questionnaires about university students' access behavior to newspapers. They show that percentage of students who read newspapers constantly is from 15 to 20%. The reasons why they do not read newspapers are as follows:(1) they can get information from TV, (2) they can get information from internet, and (3) reading newspapers is a tiresome business. Though the first two reasons seem to be proper ones, the last one is most important, because they expect newspapers to be readable and easy-to-understand. Cost is another important factor. These conditions are important to students' behavior to newspapers.

(2006年6月1日受理)